

## 総体壮行会 謝辞

私たち、高松西高選手団 351 名は、5 月 26 日のサッカー競技を皮切りに、県総体において熱い戦いを繰り広げてまいります。

西高に入学して以来、私はバスケットボール部員として部活に打ち込んできました。西高の宿題の多さ、やっても伸びない成績に悩まされながらも、歯を食いしばって部活にチャレンジしてきました。とはいえ 1 日 3 時間の練習を終えるとクタクタで、帰宅後はもう何もする気が起こらず、勉強からも部活からも逃げ出したくなることもありましたが、しかしそんな時、両親にずいぶん助けてもらいました。家から学校まで 10km。休日に車で送迎してもらったことも多くありました。また、母は、愛情のこもったお弁当、試合にはいつもカメラを構えてくれてたくさんの思い出を残してくれています。忙しい仕事の合間を縫って本当に私たちのために駆け回ってくれていたのだなぁと改めて感謝の気持ちがわいてきました。

振り返ると、去年の総体後、今まで先輩方に頼りきりだった自分がこれからはバスケットボール部のキャプテンとなることはとてつもないプレッシャーでした。先輩方の教えを引き継ぎつつ、新たなメンバーで新たな伝統を築くということはとても難しいものでした。後輩が 1 人も入部せず、先輩方の引退イコール女子バスケ部はいったいどうなってしまうのだろうか？という思いしかなく、辛く悲しいものでした。顧問の先生は、部員が 1 人でもいる限りは一緒に頑張るからとおっしゃってくれました。夏休みが明け、嬉しいことに後輩が 2 人も入部してくれました。しかし、広い体育館には部員 3 人、先生 2 人。時には部員 1 人と先生 2 人。先生の数が多い日もずいぶんありました。実際、部活を辞めたいと考えることもたくさんありましたし、同学年の仲間がいない不安やどうしていいかわからない悩みや試合に出られない悔しさも数えきれないくらいありました。そんな時顧問の先生は、親身になって話を聞いてくれ、意見をシェアし、答えを見つけられるような環境を作ってくださいました。先生の前で何度涙を流したことでしょう。その他にも、たくさんの先生方が声をかけてくださいました。時に厳しく、時に優しくたくさんの言葉を投げかけてくださり、その結果少しずつですが、着実にチームの団結力が上がってきたのではないかと思います。部長になって自分が成長できたことは間違いないと思います。

また、今日まで一緒に汗や涙を流した部の仲間。よきライバルであるとともに一緒に戦ってくれる仲間。同じ目標を掲げ、ぶつかりながらも自分を奮い立たせてくれた仲間がいます。その仲間たちとともに高校生活最後の一瞬を、輝かせていきましょう！

3 年生にとってはこれが最後の総体です。「部活をやり切った感」は、絶対に受験勉強の起爆剤になるはずですが、県総体で終わることなく、四国総体、インターハイと勝ち進みましょう！そして、部活動をやり切り、最後まで諦めない西高生を見せつけようではありませんか！

本日は私たちのためにこのような会を開いていただき、ありがとうございました。みなさんのご期待に沿えるよう、精いっぱい頑張ります。

令和元年 5 月 20 日 女子バスケットボール部キャプテン 田所 桃果